

1. 件 名：新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（柏崎刈羽原子力発電所7号炉 設計及び工事の計画）【235】
2. 日 時：令和2年6月24日 10時00分～12時00分、14時00分～18時00分
3. 場 所：原子力規制庁 9階D会議室（TV会議システムを利用）
4. 出席者（※・・・TV会議システムによる出席）

原子力規制庁：

新基準適合性審査チーム

名倉安全管理調査官、江崎企画調査官※、植木主任安全審査官、岸野主任安全審査官、津金主任安全審査官、羽場崎主任安全審査官、三浦主任安全審査官、小野安全審査専門職※、服部安全審査専門職、山浦技術参与

事業者：

東京電力ホールディングス株式会社

原子力設備管理部 建築総括担当部長 他19名※

5. 要旨

(1) 東京電力ホールディングス株式会社から、柏崎刈羽原子力発電所7号機の工事計画認可申請書のうち、耐震性に関する説明書について、令和2年6月17日、6月22日、6月23日提出資料に基づき説明があった。

(2) 原子力規制庁から、主に以下の点について説明等を求めた。

【下位クラス施設の波及的影響の検討について】

- 地盤ばねの算定の考え方を説明すること。

【原子炉格納容器コンクリート部の耐震計算書補足説明資料】

- 原子炉建屋の一層分を取り出した3次元FEMモデルでB3Fを代表とした理由について、建屋全体の地震時の挙動を踏まえて詳細に説明すること。

【格納容器圧力逃がし装置基礎の地震応答計算書、耐震計算書、補足説明資料】

- 「装置基礎剛性の不確かさを考慮した地震応答解析結果」のうち「床応答に対する影響」について、影響検討対象となる機器・配管系の名称とそれらの固有周期帯を明確にするとともに、設計用床応答スペクトル、設計用最大加速度、設計用最大変位と比較した影響検討結果を説明すること。

【原子炉建屋原子炉区域（二次格納施設）の耐震計算書、原子炉建屋の耐震計算書補足説明資料】

- フレーム構造部の解析モデルについて、基礎部の境界条件、屋根スラブの扱い等のモデル化条件を説明すること。
- 原子炉建屋と大物搬入建屋の時刻歴の相対変位について、鉛直方向の相対変位を含めて影響評価の結果を説明すること。
- NS方向の水平インピーダンスがEW方向よりも低振動数領域で大きくなる理由が地盤改良土のロッキングの影響とする根拠を説明すること。

【緊急時対策所の耐震計算書補足説明資料、緊急時対策所遮蔽の耐震計算書、補足説明資料】

- 鉄骨はり屋根スラブの接合部の構造及び耐震性について説明すること。

【地下水排水設備の機能を期待する範囲について】

- 各水位検出器の設定レベルと設計裕度の関係及び水位高警報高さについて説明すること。

【工事計画に係る説明資料 発電用原子炉施設の溢水防護に関する説明書】

- 壁厚 26cm 以下の壁に対する面外曲げの評価について、コンクリートの曲げひび割れに対する考え方を説明すること。

【地下水排水設備設置位置の地盤応答】

- サブドレンシャフト及びサブドレンピットについて、耐震性評価の観点で地盤の地震応答解析モデルの代表性を説明すること。

【サブドレンシャフト耐震計算書】

- 解析においてモデル化されているサブドレンピットの構造諸元を説明すること。

(3) 東京電力ホールディングス株式会社から、本日の説明等を求められた内容について了解した旨の回答があった。

6. その他

なし